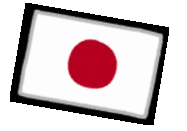




¡MÉXICO MÁXICO!

メヒコ マヒコ - 魅惑の国メキシコ - Ene. 2018



【Vol.5】クアトロ・シエネガスとチワワ太平洋鉄道

砂丘の頂上でライオンキングポーズ



メキシコ北部(ほぼ)横断の旅

12月初旬から始まった1ヶ月にも及ぶ長い長いクリスマス休暇。いまこそ気の向くままふらりと旅行にでられるとき！と思い、航空券だけ取ってあとはノープランの北部横断の旅に行ってきました。治安が良いとは言えないメキシコの中でも、アメリカと隣接している北部は麻薬がらみの犯罪が多いため、普段以上に安全に気を配る必要がありますが、ネガティブな印象が先行しているのがもったいない！と思うくらい惹きつけられた地域でしたので、旅のハイライトをお伝えできればと思います。

今回の旅の目的は、コアウイラ州のクアトロ・シエネガス村(Cuatro Ciénegas: 4つの湿地帯)に広がる白い砂漠 Las Dunas de Yeso と

NASA も注目する青い泉 Poza Azul を見ること。モンテレイから高速バスで片道5時間ほどの場所で、サボテンが自生する The メキシコ！な風景が広がる場所です。

Las Dunas de Yeso は石膏でできた砂丘のため裸足で歩くとひんやり。そして音を吸収するので、雪が降った日のごとくにとても静かです。Poza Azul を見たときは透明度と青のグラデーションに思わず感嘆の声が出ましたが、ここが注目されているのは、地球上最初の生命体が生息しているためだそうです。詳しくはディスカバリー・チャンネルで観られるそうです。現地ガイドのロボさんによれば、一番青い泉はここではなく、もっと奥に入ったところで一般公開はしていないとのこと。気になります....！



泉の水温はいつも30℃以上

出発直前。向かいは連結前の1等車

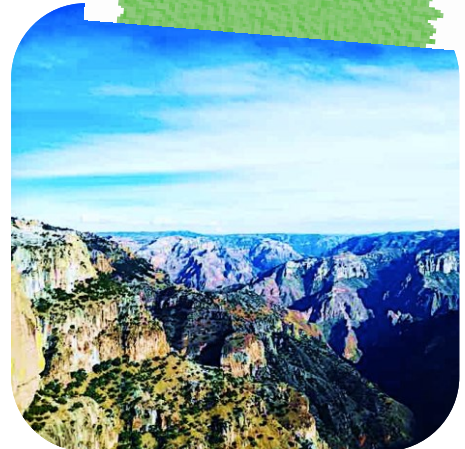
世界の車窓から～チワワ太平洋鉄道～

日本のご長寿鉄道番組を楽しく観ていた者として、チワワ太平洋鉄道 Chepe(チェペ)への乗車は長年の夢でした。アメリカのグランド・キャニオンの4倍の規模を誇る Copper Canyon、今もタマウラマ族が自給自足で暮らす峡谷——メキシコ国内で唯一の鉄道に乗って、乾燥した山岳地帯の間をのんびり進みながら、地形の移り変わりを体感できる貴重なローカル線の旅ができました。

Chepe の旅は、約15時間(仮)かけて650Km、標高差2,300mを進む旅です。2等車は2日に1本、早朝6時発。事前購入したチケットカウンターのお兄さんから「当日はチケット確認に時間がかかるから、必ず30分前には来てね」と何度も念を押され、「大丈夫、私たち日本人だから muy puntual(時間に正確)なの！」と笑顔で答えたものの、結局少し遅刻したのですが、発車10分前くらいまでなら乗せてもらえる雰囲気でした。

車内では、隣席のセニョーラ達の準備の素晴らしさ(防寒バッチリな服装&ポット持参&軽食)に感じ入っていたところ、Chepe は4回目という大ベテランさん達だったこ

ディビサテロ駅からの眺め



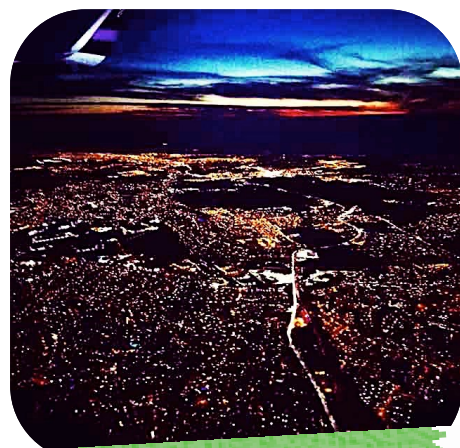


干し肉(Machaca)文化の北部

とが判明。2等車だと地元住民の方々とは話す機会があるので生活の様子がかがえ興味深いです。本当は、絶景が見られるディビサテロ駅で途中下車し1泊する予定でしたが、モンテレイ-チワワ間の飛行機に5分差で乗り遅れて日程がずれたため、今回はノンストップの旅です。メキシコでは予定は未定と考えた方が精神上健康に過ごせると思っていますが、Chepeでも予定到着時刻を2時間(!)オーバーして深夜の到着。思いがけない状況で常に自分の臨機応変具合を求められ、周りのメキシコ人に何度も助けてもらって成り立った旅行でした。シエネガスで出会ったガイドのロボさん、チワワ

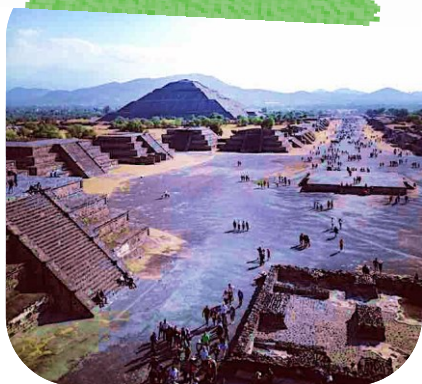
の洞窟で出会った大学生シルビアと彼女の家族、飛行機の変更手続きに信じられないくらい丁寧に対応してくれた航空会社 Volaris のスタッフの皆さんなど、こうした人達とのやり取りが、私を北部へ惹きつけるきっかけのひとつを生んだと思います。

旅行中は外国人旅行者を見かけることもほとんどなく、カフェやスーパー、道端など行く先々で現地の人達から話しかけてもらえ、良いリフレッシュの旅になったと共に、自分の会話の弱点も新たに発見でき、実り多い旅行になりました。



旅最後の地ティファナ市の夜景

月のピラミッドから眺める景色



初詣@テオティワカンと洞窟レストラン

クリスマスを盛大にお祝いするメキシコでは、お正月休みは1日のみで、2日から仕事始め。イベントといえば、31日の夜に鳴らされる鐘の音とともに12粒のブドウを食べる風習がありますが、日本に比べて新年の迎え方はとてもあっさりです。お正月らしさゼロは寂しい、日本人としてはどこかへお参りして新年を迎えたい!と思い、メキシコで最も神聖な場所として名高い、テオティワカンへ初詣に行ってきました。

この日に初めて知りましたが、メキシコ人も初詣をする模様。太陽のピラミッドは長蛇の列で、あれ

ほど並んでいる光景は初めて見ました。おみくじはさすがになかったので、運試しを兼ねて、テオティワカンのすべての階段でグリコ遊びを。その後、近くの洞窟レストランでウサギ肉の蒸し料理を頂きました。はじめて食べましたが、味はツナにそっくりで、とても柔らかくホロホロ。メキシコではレストランのメニューに思いがけない単語を見かけることが多いので、メセロ(Mesero:ウェイター)との会話にも熱が入ります。以上、バス代往復50MXN(30円)、CEPE学生証で無料で見学できるテオティワカン初詣でした



奥の洞窟祭壇へキャンドルも灯せませす

Cielito Querido Caféにて美食!



新年を美味しくお祝い☺ロスカ・デ・レイェス

メキシコでは、お正月よりも1月6日のほうが断然有名です。キリスト教の公現祭(Epifanía)にあたる日で、新約聖書に登場する東方の3人の博士がキリストの誕生を祝いに贈り物を持って訪れた日。この日にクリスマス・プレゼントをもらう子も多くいます。

6日に食べられる伝統菓子ロスカ・デ・レイェス(Rosca de Reyes:三博士のドーナツ)は中に小さな人形が隠されていて、これが当たった人は1年間幸せになれるというおみくじパンです。パン屋さん等で売られ、当日は2Kgもの超特大サイズまで売られていました。わたしもカフェで友人達と試したロスカで的中。本来は2月にタマル(Tamal: トウモロコシ粉を蒸した軽食)を振る舞う役でもあるのですが、お店ではクーポンになります!